

大学発の技術移転が抱える課題と解決策

～今、現場で何が起きているのか？～

パネリストには、国立大学法人と私立大学のTLOを代表する2名の他に、大学発技術をビジネスの核として成長したバイオベンチャーの社長、リードベンチャーとして大学発ベンチャーへの投資実績のあるベンチャーキャピタリストを招き、技術移転の出口戦略を見据えた、多くの観点からの議論が活発に行われた。例えば、失敗も含めた体験の蓄積から出てくる創造性、技術情報の質の担保のための体制作りの重要性などについて、具体例を交えて議論が交わされた。



パネリスト紹介

モデレーター

清水 初志（しみず はつし）

清水国際特許事務所所長・弁理士

1987年東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了後、特許庁に入庁。1992年まで審査官補、審査官として、生命工学関連技術の審査を行う。その後同大学大学院博士課程において1995年に薬学博士取得。「清水国際特許事務所」を開設し現在に至る。東京大学先端科学技術研究センター客員教授として、CASTI（現「東京大学TLO」）の立ち上げを主導した。現在、多くの政府系機関、国内外のバイオ企業の顧問を務める一方、東京大学大学院新領域創成科学研究科、東京医科歯科大学、名古屋大学、聖マリアンナ医科大学で客員教授を兼任。



山本 貴史（やまもと たかふみ）

株式会社東京大学TLO
代表取締役社長

中央大学卒業後、株式会社リクルート入社。リクルート時代は採用関係の営業・企画、新卒採用のリクルートブックの企画課長を行う傍ら、ベンチャー企業の研究と併せて、技術移転のプロジェクトを立ち上げ、主に産学連携による技術移転の事業化に関する研究をおこなう。産学連携による技術移転を手がけ、ライセンス契約・コンサルティング契約を成立させる。2000年6月（株）リクルートを退社。2000年7月1日、株式会社先端科学技術インキュベーションセンター（現株式会社東京大学TLO）代表取締役社長就任し、現在に至る。東京大学非常勤講師 東京理科大学客員教授 東京工科大学 客員教授。また、大学技術移転協議会 理事、日本ライセンス協会（LES）理事、日本知財学会 理事も兼任。





大竹 秀彦(おおたけ ひでひこ)
MPO株式会社代表取締役社長

東京大学教養学部教養学科(国際関係論専攻)卒、ハーバード大学ビジネススクールMBA取得。米国系経営コンサルティング会社のペイン・アンド・カンパニー、及び、米国系マーケティング会社のジェイ・ウォルター・トンプソンにて、過去10年以上にわたり、製薬会社・医療機器会社・IT企業をはじめ40社を超える国内外の企業へのコンサルティングを経験。2004年7月にMPO株式会社を設立、代表取締役に就任し、現在に至る。MPO株式会社は、2005年7月に聖マリアンナ医科大学との間で技術移転機関としての包括契約を締結し、大学の持つ「知的財産」「専門知識」の活用支援の他、聖マリアンナ医科大学発ベンチャーの事業化支援を行っている。



一圓 剛(いちえん ごう)
ヒュービットジェノミクス株式会社
代表取締役社長(CEO)

1981年エーザイ株式会社入社。エーザイ時代には、医薬部企画グループの循環器領域プロダクトマネージャー、医薬品営業戦略、商品戦略企画等を担当。その後、研開推進部、研究推進・研究企画業務を担当。一時期にはエーザイ社内ベンチャーの株式会社カン研究所に所属していた。2000年04月にヒュービットジェノミクス株式会社設立、代表取締役就任。現在に至る。



辻野 誠司(つじの せいじ)
日本アジア投資株式会社
名古屋支店 支店長

1966年北海道江別市生まれ。1991年日本アセアン投資(現日本アジア投資)(株)入社、1999年札幌支店支店長、2004年名古屋支店長を歴任。担当した主なバイオ企業は、北海道大学発ベンチャーのオンコレックス、名古屋大学発ベンチャーのテッシュターゲッティングジャパンがある。

